



TITLE:

<記事>4.水族館記録 1996年

AUTHOR(S):

CITATION:

<記事>4.水族館記録 1996年. 瀬戸臨海実験所年報 1997, 10: 6-6

ISSUE DATE:

1997-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/178942>

RIGHT:

4. 水族館記録 1996 年

1. 飼育・展示関係

- 1月 1日 白浜沖で操業の漁師よりチョンマゲラクダアンコウ 1 個体を受け入れた。入手直後に死亡のため、固定・保存した。国内 2 個体目の記録になる。
- 20日 堺港よりイバラガニモドキ 1 個体を受け入れた。熊野灘以南では初記録になる。4 日後に死亡した。
- 2月 5日 堺港よりオオエンコウガニ 1 個体を受け入れた。当館としては 16 年ぶりの飼育になる。7 月 11 日に死亡した。
- 7月 10日 No. 222「甲殻綱」(セミエビ類), No. 224「花虫綱」(ヤギ類), No. 225「花虫綱」(キサソゴ類) 水槽の展示動物を下記のように変更した。
No. 222「甲殻綱」(小〜中型甲殻類): 第 4 水槽室の第 1 系統の循環系(冷水系)に組み込んだ。これと関連して観察ガラス面の結露水を受けるといを取り付けた。
No. 224「甲殻綱」(小〜中型イセエビ類・セミエビ類): 隠れ場所としてコンクリートブロック数個を入れた。
No. 225「花虫綱」(ヤギ類・キサソゴ類): 水流を得るためエアレーションを追加した。
- 8月 14日 No. 407「深み」水槽の魚類に白点病が発生した。投薬のため単独循環としてクーラー 1 台を仮設置, 18 日に水温の上昇を抑えるため, もう 1 台を追加した。26 日に完治し, 元の循環系にもどす。
- 9月 2日 7 日まで博物館実習(京都外国語大学学生 1 名)を実施した。
- 26日 堺港よりオニダルマオコゼ 1 個体を受け入れた。白浜近海での採集例としては, 2 個体目の記録になる。No. 305 水槽に展示した(飼育継続中)。
- 10月 2日 No. 403「岩礁」水槽の魚類を更新した。成長した魚類は, 分類群別に各水槽で飼育を継続している。
- 21日 富田川において餌料用のエビ採集でタナゴモドキ 1 個体を採集した。沖縄県以北では初記録になる。
- 12月 3日 No. 410-2「スズキ目」, No. 410-3「スズキ目」水槽の仕切板破損のため撤去し, カゴカキダイ科, チョウチョウウオ科, キンチャクダイ科, スズメダイ科, ベラ科, ブダイ科を混合した展示とする。
- 25日 堺港よりテナガオオホモラ 1 個体を受け入れた。当館としては初飼育になる(飼育継続中)。

2. 設備関係

- 2月 8日 第 4 水槽室の老朽化した餌料保管用の冷凍庫(1,018l)を更新した。
- 13日 第 1 水槽室の老朽化した No. 2 揚水ポンプ(5.5KW)を更新した。
- 6月 15日 第 1 水槽室の老朽化した No. 1 揚水ポンプ(5.5KW)を更新した。
- 11月 25日 夜間における大潮低潮時の対策として, 揚水ポンプにタイマーを接続した。これによって低潮時の自動停止と起動が可能となり, 飼育・設備担当職員以外の宿直が可能になった。